



学校運営方針(スクールプラン)

人間性豊かな
子どもを
育てる

学校教育目標

「共に学び・共に喜び・共に誇れる常葉中を築く」

重点課題
(=学校評価)

- 学校教育活動全体を通じて「健康の保持増進と体力の向上」を図りながら、次の点を重点課題として取り組む。
- 1 主体的・対話的な思考により、深い学びにつながる授業を創る(学習指導G)
 - 2 他を思いやり、礼儀正しい言動のできる生徒を育てる(生活指導G)
 - 3 一人ひとりの可能性を大切にし何事にも意欲的に取り組む生徒を育てる(支援教育G)
 - 4 地域と一体となり誰もが楽しく学び・生活できる学校を共に創る(学校運営G)

本年度
研究テーマ

- 「外国語教育の推進」: 小中一貫フロンティア研究委託テーマ
- 新学習指導要領実施に向けて教師力・授業力・評価力の向上
 - 特別の教科「道徳教育」小・中9年間の系統性・連続性の研究・推進

1 2 3 4

	1 主体的・対話的な思考により、深い 学びにつながる授業を創る	2 他を思いやり、礼儀正しい言動 のできる生徒を育てる	3 一人ひとりの可能性を大切にし何事 にも意欲的に取り組む 生徒を育てる	4 地域と一体となり誰もが 楽しく学び・生活できる 学校を共に創る
重点課題 II 学校評価	<p>①基礎基本を大切に、生徒が主体的・対話的に学ぶ授業を工夫している。</p> <p>②目的を明確にした中で自ら考え、表現できるような授業の場を設定し、深い学びにつながるようになっている。</p> <p>③生徒理解を深め、個々のニーズにあった指導をしている。</p> <p>④評価、評定について、生徒が理解できるよう説明している。</p> <p>⑤9年間の学びを意識した学習内容を明確にし、発達段階にあった学習内容を計画している。</p>	<p>①中学生らしい立派な態度がとれるように、具体的な姿が示されている。</p> <p>②学年・学校行事に生徒が主体的に参加できるように工夫されている。</p> <p>③生徒が学校の一員として、生徒会活動に積極的な参加ができるような手立てがとられている。</p> <p>④生徒が部活動に積極的に参加し、自らを鍛えることができる指導がなされている。</p> <p>⑤生徒の手による環境整備・美化活動を推進するための手立てがとられている。</p>	<p>①(あわせる)授業や活動が意欲的に取り組めるように工夫されている。</p> <p>②(つたえる)授業のねらいや活動のルールがわかりやすく伝えられている。</p> <p>③(みとめる)個々の成長が認められ評価されている。</p> <p>④不安や悩みを本人・保護者と学校が協力して解決を目指す体制ができています。</p> <p>⑤個別に支援や合理的配慮が必要なケースについて手立てが検討され、インクルーシブ教育推進を目指した取り組みがされている。</p>	<p>①いじめやトラブルがなく安心して、楽しく学校生活をすごすことができる。</p> <p>②学校の施設・用具等はよく点検・修理されていて、安全に生活ができる。</p> <p>③家庭・保護者との綿密な情報連絡や連携等、協働体制が取れている。</p> <p>④自然災害(地震、津波等)・火災・不審者等への学習や避難訓練等対応策がよく取れている。</p> <p>⑤地域との綿密な情報連絡や連携等、協働体制が取れている。</p>
具体的な 手立て・ 方策	<p>①教科テーマ及び個人テーマを設定し、年間を見通した指導計画(評価含む)を立てる。テスト問題、評価項目、指導の手立て等、教科会で検討し、共通理解を図る。</p> <p>②思考力、判断力、表現力を育成するために必要な指導力の向上を目的とした研修会を計画する。</p> <p>③教科会及び学年会、職員会議等での情報交換を密にし、生徒の様子を多角的に捉えられるようにする。</p> <p>④年度当初の指導計画、単元ごとの評価内容等を生徒に明示する。</p> <p>⑤小学校との各合同教科会の中での授業参観・協議・指導案検討を通して、学習内容、学びの系統性・連続性について共通理解を図る。</p>	<p>①挨拶・返事・五分前行動の励行。周りの人々への感謝の心を持ち、全ての活動を行う。</p> <p>②「学級の日」の活動や学年との取組を軸として、リーダー層を育成していくとともに、フォロワーとしての好ましい態度を身につけさせる。</p> <p>③生徒総会や役員選挙を通じ、学校全体の問題に対する共通認識を持つように指導するとともに、委員会活動を中心に、全校生徒が取り組める活動を設定する。</p> <p>④部活動顧問間の連携をとり、全体で把握したことを部長会を通じ、生徒に伝える。</p> <p>⑤委員会活動を中核に、美化活動に対する啓発を行う。</p>	<p>①学校全体で教育のユニバーサルデザイン化をあらゆる活動において推進する。</p> <p>②教材や話し方の構成の工夫、ICTを活用するなど、生徒が理解しやすい伝え方を取り入れる。</p> <p>③授業や行事における振り返りの機会を大切に、自尊意識を高め、自分の課題を受け止め、新たな目標に向かって取り組もうとする意欲を育む評価をする。</p> <p>④日常の様子だけでなく、面談やアセスメントの結果も参考に、不安や悩みのサインに気づき早期対応に努める。</p> <p>⑤個々のケースは専門職とも連携し、手立てを検討する。全校では、多様性の理解につながる指導を実施する。</p>	<p>①学校いじめ防止基本方針のもと「学校いじめ防止対策委員会・いじめ防止対策委員会(生徒指導係会・支援教育委員会等)」を定期的に開き日常でのいじめや体罰の状況を把握するとともに、「学校評価アンケート」「学校生活アンケート」「i-check」を行いその結果をもとに積極的な対応策を取りいじめ・体罰の撲滅を図る。</p> <p>②ホームページ、まちcomiメール、学年・学級・生徒指導通信等によって学校の保護者・地域と情報を共有していく。</p> <p>③学校公開日(土曜参観日・餅つき大会等、学校へ行こう週間他)を多く開催し、学校の普段の様子を見て、感じていただく機会を積極的に取る。</p> <p>④地域連携を密にし、地域後継者である子どもたちをみんなの力で育てていく。</p> <p>⑤地域連携震災時避難について三年目となる避難訓練を実施していく。</p>